



2019-20 年度 国際ロータリーのテーマ



ロータリーは世界をつなぐ

2019-20 年度国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー
RI 2630 地区 岐阜東濃グループ



題字：吉川義康

例会プログラム

1. 開会点鐘
2. ソング 「我らの生業」
3. ゲスト・ビジターの紹介
4. 食事と交歓
5. 会長の時間
6. ロータリー財団表彰
7. 出席報告 例会運営委員会
ニコボックス発表 親睦委員会
8. 委員会報告、幹事報告
9. 卓話 財団担当委員長 吉村 庸輔君
財団担当委員会
10. 閉会点鐘

会長の時間



2019-2020 年
第 62 期 中津川ロータリークラブ

会長 **吉川 義康**

『ロータリー地区補助金事業
(前半)の報告』

11月3日(日)、4日(月・祝)に、ロータリー地区補助金事業として実施した「子供の健やかな成長を願う“子供の夢”支援事業」の様相を報告します。

元なでしこジャパンの永里亜紗乃さんと元サンフレッチェ広島総監督の今西和男さんをお招きし、3日に商工会議所ホールに中津川市近隣の小学校生約190名を集めて講演を行い、4日には中津川多目的芝グラウンドで午前低学年、午後高学年を対象として約200名を集めて少年サッカー教室を開いた。

3日の講演会で、今西和男さんが次のように話された。「自分は4歳の時、広島で被爆し足にケロイドを負った。子供の頃いじめを受けたが、足が速かったのでスポーツで見返した。高校2年生でサッカーを始めたが、誰にも負けない精神力で頑張って東京教育大学に入り、サッカー日本代表選手になった。」

今西さんは、現役引退後に日本サッカー協会の技術委員会副委員長を勤め日本各地を廻っている。今日ここで子供達が元気にサッカーをしている姿に大変感激し、また東美濃ふれあいセンターの施設を見て「周りの山の景色と非常にマッチし、日本でも有数の競技場施設である。」と言われた。

永里亜紗乃さんは、17歳でアジア大会の女子サッカーで得点王に輝いているが、姉は有名な日本代表ストライカーの永里優李(大儀見優李)選手である。本人はドイツ女子サッカーワールドカップに出場することができず、お姉さんの活躍をテレビで見て大変悔しい思いをした。そこで、22歳で単身ドイツにサッカー修行に行き、ドイツリーグで活躍した。その後、なでしこジャパン日本代表になり、カナダの女子サッカーワールドカップにお姉さんと出場した。しかし、27歳の時、両足の膝の半月板を痛めて走れなくなり、若くしてサッカー界を引退した。それからは、NHK等のTVで女子サッカーの解説者として多くの番組を持ち、持ち前の明るいキャラクターで活躍中である。

今回の講演で、子供達はスポーツを通じて「何でも頑張れば、いつか達成する。」との教えを聞き、そこに「自分の夢」「仲間の大切さ」を学ぶことができたと思えます。



2018/11/15 AM6:39 気温-5.7℃ 木曾町開田木曾馬の里からの御嶽山
撮影 原 眞平君